

三谷地区 かわら版 第1号

三谷地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

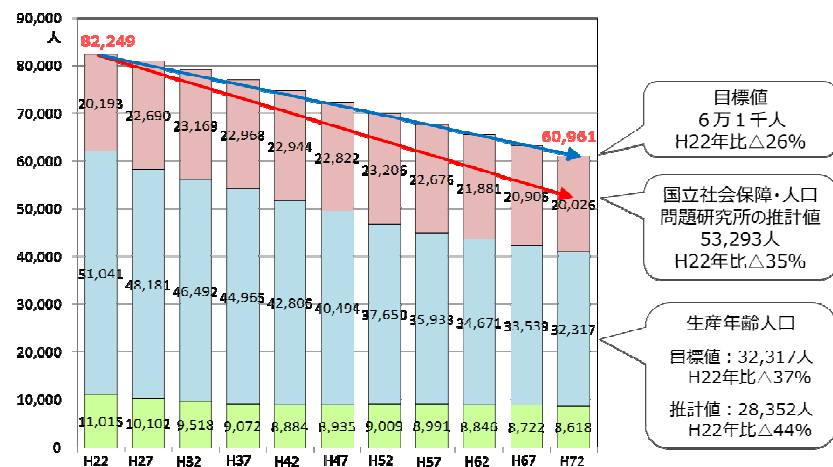
三谷のまちづくりと公共施設の将来について皆さまとともに考えています

蒲郡市では、今年度、三谷地区及び蒲郡南地区（蒲郡中学校区）にて、地区の皆さまが主な利用者となる公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来の姿について、地区の住民の皆さまと協働で考えていく機会として「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しております。こちらの「かわら版」を通じて、ワークショップの各回の検討内容のお知らせや地区にお住まいの皆さまからのご意見の募集を行っていきます。

蒲郡市の現状と課題

① 人口減少と少子高齢化

蒲郡市の人口は、42年後の平成72年（2060年）には、現在から2万人以上減少し、約61,000人（市目標値）になると推計されています。また、生産年齢人口が減ることによる税収減、少子高齢化による扶助費の増加により、今後公共施設の維持更新にかけられることができる費用が減っていきます。

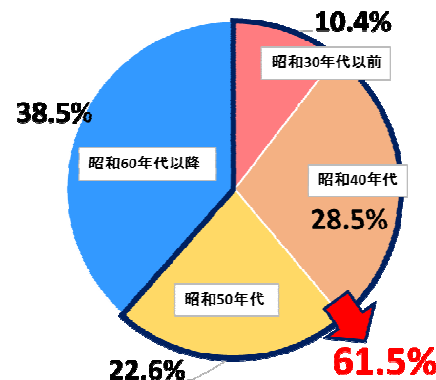


図：蒲郡市の目標人口

② 進む施設の老朽化

蒲郡市の公共施設の多くは、昭和40年代から50年代にかけての高度経済成長期に建設されました。人口・経済ともに右肩上がりだったこの時期に建てられた建物は、今では少なくとも築33年を超えています。これらは市が保有するハコモノ施設の約6割を占めています。

今後、安全性や機能性を確保するために大規模な改修や建替えが必要となり、多額の費用が必要となります。

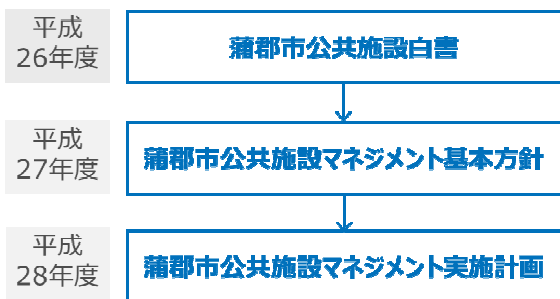


図：市の保有する公共施設の建築年別床面積割合

蒲郡市におけるこれまでの取り組み

公共施設マネジメントとは、市などが所有・管理する公共施設を自治体経営の視点から、総合的、統括的に管理・運営・活用する取り組みです。

市では、平成26年度に「蒲郡市公共施設白書」を作成し、公共施設の現状と課題を整理しました。その後、アンケートや市民会議などを通じ、市民の皆さまのご意見を反映させながら、公共施設マネジメントの原則を示す「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」、公共施設の再整備を進めていくための方策を示す「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画」を策定しました。



■ 蒲郡市公共施設マネジメント基本方針

適正化 効率化 魅力 安全性 実行力

この5項目を公共施設マネジメントの取り組みを進めていく上での原則として示しました。

■ 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画

目標、施設用途別の方向性、実行体制などを示し、公共施設マネジメントの取り組みを具体化させました。

計画期間、マネジメント目標については、以下のとおりです。

◆計画期間：30年間(平成29年度から平成58年度まで)

◆マネジメント目標：

- ①建物更新の際に概ね3割の床面積を縮減する。
- ②保有床面積の縮減と建物の長寿命化による費用の平準化により、523億円の維持更新費を縮減する。

地区個別計画の策定

地区の皆さまが主な利用者となる小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を中学校区ごとに策定していきます。

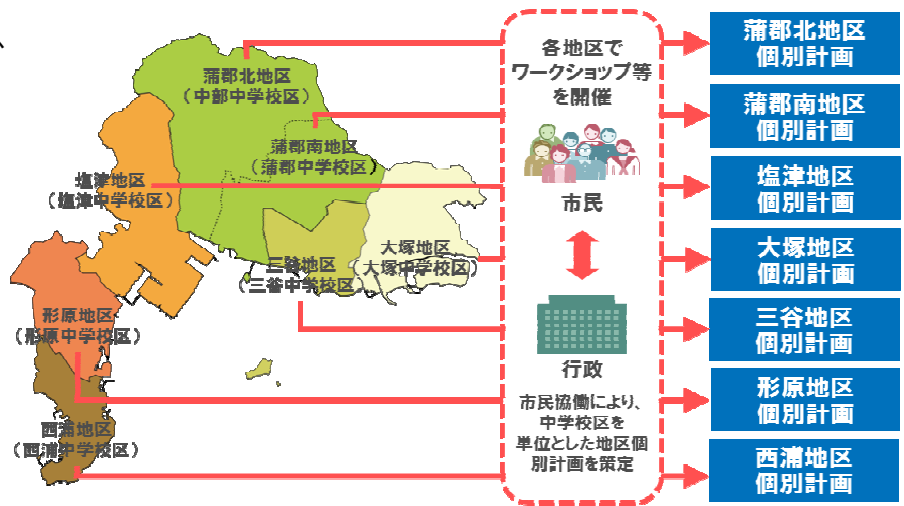
ワークショップやかわら版での意見募集、パネル展示型説明会等の実施により地区にお住まいの皆さまの考え方・アイデアを取り入れ、皆さまと協働で計画の策定を進めていきます。

【用語解説】

ワークショップ：意見やアイデアを出し合い、話し合いをしながらその成果をまとめていく検討方法です。

かわら版：本紙のことです。ワークショップでの検討内容をお知らせし、地区の皆さまからご意見を募集します。

パネル展示型説明会：住民の皆さまが集まる施設でパネルを用いた説明や簡単なアンケートを行います。昨年度は地区内の商業施設や児童館等で実施しました。

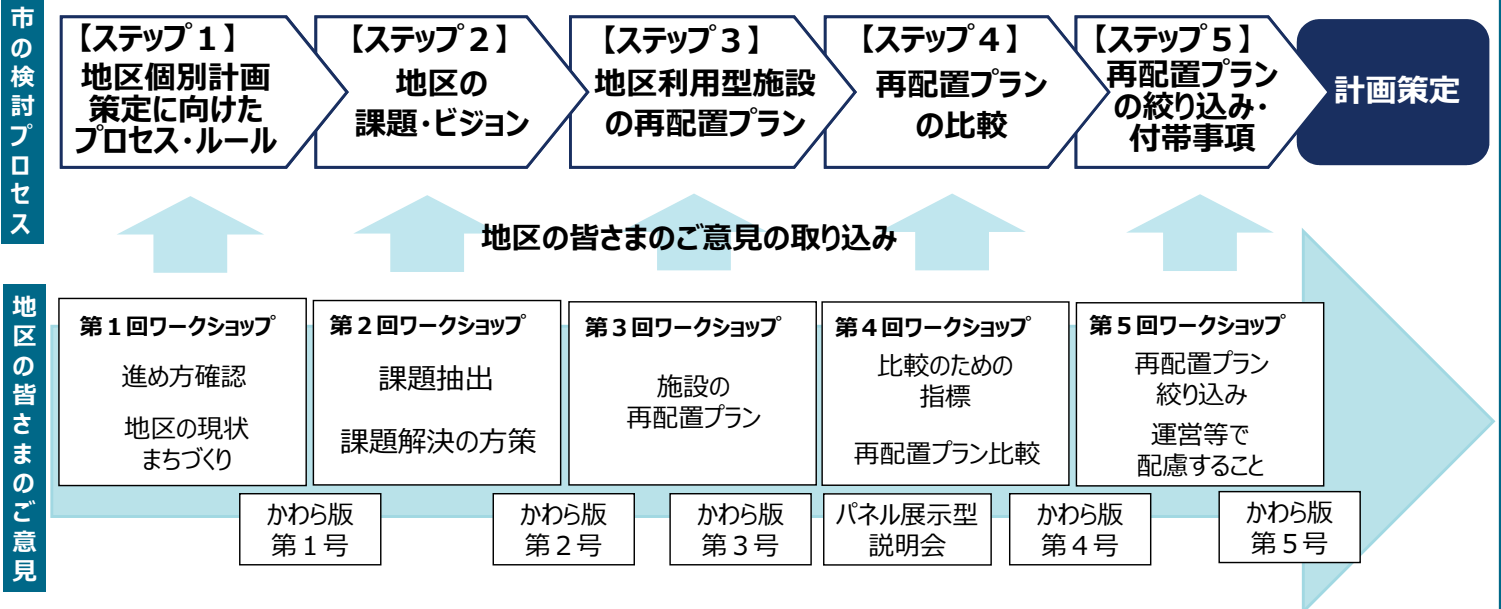


ワークショップの目的と検討の進め方

蒲郡市が「地区個別計画」を策定するにあたり、市と地区の皆さまと協働するための重要な機会として、「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を実施しています。

このワークショップは、「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。「地区の将来をどのように考えるか」「なぜそう考えるのか」といった地区の皆さまの関心に着目していきます。

市は、ワークショップやかわら版を通じて得た皆さまのご意見を検討の各段階で取り込みながら、「三谷地区個別計画」の策定を行うことで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。



第1回ワークショップを開催しました

7月1日（日）三谷公民館にて、「第1回三谷地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しました。三谷地区にお住まいの31名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。

今回のワークショップでは、まず、これから実施されるワークショップに関すること、これまでの蒲郡市の公共施設マネジメントの取り組みや課題について事務局が説明を行いました。その後、4つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、三谷地区の公共施設の現状や今後のまちづくりについて地区の皆さんで話し合いました。ワークショップの最後には各グループでの議論の内容を会場全体で共有し、第1回目のワークショップを終えました。



第1回ワークショップの様子

第1回ワークショップでのご意見

計画の検討やワークショップの進め方について

■ 公共施設マネジメント実施計画について

- 生活が不便になればますます人口は減ると思うので、(施設の)縮小ばかりを考えず、商業振興などの人口を増やすための施策に投資をすることも必要だ。
- 本当に将来の維持更新費が足りなくなるのか。長寿命化の考え方や平均値の取り方など、シミュレーションの方法に疑問があるので説明を聞いても納得できない。データの根拠を示してほしい。
- 個別の施設を耐震化して投資を分散させるよりも、新しい施設に集中させた方が無駄がないと思う。将来的に子どもの数が更に減っていくなら、学校を整理することも含めて早期に配置計画を検討すべきだ。

■ 地区個別計画策定に向けた検討の進め方

- 公共施設の再整備を考える前に、目指すべきまちの将来像を描く必要があるのではないかと。
- 行政区と学校区が異なることが地域にとっての課題になっている。三谷中学校区だけでなく、地域の子ども達の一部が通学している竹島小学校と蒲郡中学校、ひいては近接している東部小学校も含めて、施設の再編を考える必要があると思う。
- 学校に他の施設を複合することが前提ではないとのことだが、地区内にある検討対象施設が学校、公民館、保育園などとなると、学校に集めることになるのかと思った。
- 地区個別計画では地区利用型施設（地区の皆さまが主な利用者となる学校や保育園、公民館などの施設）だけについて検討するということが、地区内の公共施設の配置バランスを考えると、全市利用型施設（市内全域の方が利用者となる図書館や市民会館などの施設）の配置も踏まえる必要があると思う。地区利用型施設と全市利用型施設の施設配置計画の整合をどのようにとるつもりなのか市の見解を聞きたい。

■ ワークショップの進め方

- ワークショップの最終的な成果がイメージできないので、ワークショップの意見が市の最終案にどのように、どのくらい反映されるのかわからない。
- ワークショップが話し合ったという事実だけを作る場にならないために、出された意見がどのように反映されたかやワークショップを通じて検討された計画の進捗状況などを、参加者にしっかりフィードバックしてほしい。
- ワークショップの中で意見が分かれた場合には、熟議によって共通の方向性を探ることも必要だと思う。そうしないと単に意見を聞く場になってしまうのではないかと。
- 計画案を机上の空論にしないためには、施設の管理者や保育園の保護者などの利用者の意見を聞くことも大切だ。ワークショップに参加してもらえなくても、アンケートや現場調査などを行えば良い。
- 地区ごとの課題や各世代が感じている意見を出し合って、まとめていく検討プロセスに特に異論はない。住民に広く計画を知らせるために、ワークショップだけでなく地区のイベントを活用することも考えてはどうか。
- 複合化のメリットとデメリットや地区別の将来人口などのデータを示してもらい、施設の組合せや小学校の統合を検討する際の判断材料にしたい。



地区のまちづくりの方向性

- 子どもから高齢者までが住みやすいまちを目指して、多世代の交流が図られ、子育てしやすい環境づくりや教育の質の向上につながる計画を作ってほしい。
- 西区では一部竹島小学校に通っている子ども達がいるので、地区住民としての意識が低下し、地区の一体感に欠けてきているように思う。行政区と学校区が異なるのは、所属するコミュニティがちぐはぐになるということでもあり、子どものためにも良くない。学校区の変更や選択制の導入を検討できるとよい。
- 若い世代の感覚としては、現状の行政区と学校区の違いをそこまで問題視していない。竹島小学校に通っていても三谷祭には協力してくれているので、それだけでもありがたいと思っている。
- 三谷祭の伝統や風習を背景にした三谷のコミュニティを今後も守っていききたい。閉鎖的とも言われるが、一旦馴染めば良好な関係性が築ける土地柄なので、地域コミュニティの形成や主体的な活動が促されるような計画づくりができると良い。
- 区によって人口や世帯数などの状況が違うので、それぞれの区の実情に沿った計画を作ってほしい。

公共施設の現状や今後について気になること

■ 公共施設全般

- 施設を複合化して1つの施設が様々な目的を持つことで、利用者が多様化し、利用率のアップや多世代の交流の創出などのメリットが生まれると思う。ただ同時に、子どもと高齢者が一緒にいることは難しいのではないかと。
- 学校の空き教室やまちなかの空き家などを有効利用することを考えてはどうか。空き教室を利用する際には、十分な機能を果たせるだけのスペースが確保できるかを検討した上で、学校に多くの人が入り出すことによる危険性などのデメリットにも配慮する必要がある。
- 学校を始めとして老朽化している施設が多く、対策が必要だと思う。三谷地区は海に近いので、津波や強風などの災害による被害も心配だ。
- より多世代が利用しやすくなり利用率を向上させるためには、ハード面だけではなく、利用ルールの緩和や予約方法の簡素化などのソフト面の整備も必要だ。
- 公民館などの公共施設をほとんど使っていない若い世代などは、利用方法やどんな活動ができるかなどがわからない状況ではないか。
- 放課後の子ども達の居場所、デイサービス以外の比較的元気な高齢者のための施設、学習スペースのある図書館などが地区にあると良い。
- 三河三谷駅や公共施設の駐車場が少なく、路上駐車の問題も発生している。

■ 小学校・中学校

- 小学校も中学校も老朽化しているので、子ども達の安全が確保できるかという不安がある。避難所でもあるので、施設を新しくするのならまず学校だと思ふ。安全な避難所があることは人口の流入にもつながるのではないかと。
- 小学校の生徒数が減っていることを考えると、三谷小学校か三谷東小学校かのどちらかに統合するのがこの地区の個別計画のポイントになると考えている。各校の伝統や災害時の安全性などの様々な観点から、統合の方向性を検討できると良い。

公共施設の現状や今後について（続き）

■ 小学校・中学校

- 学校を小さな子ども達から高齢者まで多世代が交流できるような施設にできると良い。
- 三谷東小学校の児童クラブは三谷東小学校にあるが、三谷小学校の児童クラブは児童館を使っている。子どもの放課後の居場所として、小学校をもっと活用してほしい。

■ 保育園

- 三谷西保育園と三谷東保育園をひとつにまとめて、災害の危険性のないところに新築できると良いと思うので、保育園の統廃合を進めてほしい。
- 市内のバスなどを活用することで、保育園の送迎の負担を軽減できないか。

■ 公民館

- せっかく良い施設があるのだから、営利目的にも使えるように規制を緩めたり利用を促すソフトを展開することで、公民館を祭りや日中の年配層の利用以外にも使われる場にできると良い。
- 公民館は祭りの際に重要な施設で、立地的にも使いやすい。無料で使える場を必要としている現状の利用者にとっても欠かせない施設だ。ただし、高潮の影響などの心配がある。

■ 児童館

- 児童館の建物はまだ新しいので、1階のデイサービス部分が空くのであれば、図書館などの機能を入れて有効活用できると良い。

その他

- 地区の集会所が老朽化しているので、安全性確保のためには耐震化する必要があるが、状況は地区によってまちまちだ。公共施設の複合化や集約化を検討する際は、集会所の建替え状況も踏まえる必要があるのではないか。
- 消防団倉庫は今回の議論の対象ではないが、建て替えが必要な時期を迎えているので、他の機能を複合することなども考えながら検討してほしい。
- バスの利便性、不審者による治安の悪化など、地区には公共施設以外の課題もある。



ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、三谷地区にお住まいのたくさんの方のご意見を踏まえて「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **三谷地区のまちづくりや公共施設について**

ご意見をお待ちしています!!



日々の生活で感じている三谷地区や地区の公共施設に関する些細なことでも構いません。下記のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

次回ワークショップのお知らせ

**日時： 8月5日（日）
午後1時30分～午後4時30分**

**場所： 三谷公民館 3階
大集会室**

**内容： 地区の課題について
課題の解決策について**

どなたでも傍聴ができます。
ワークショップの10日前から受付を行いますので
傍聴ご希望の方は、右の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課
公共施設マネジメント担当

〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp
TEL 0533-66-1158
FAX 0533-66-1183

ワークショップについて、詳しくは市HPをご覧ください。

<http://www.city.gamagori.lg.jp/unit/zaimu/machizukuri-kokyoshisetsu.html>

